

飯上げ体験、陸軍病院壕周辺戦跡めぐり

大戦時、ひめゆり学徒隊が利用した飯炊き場から陸軍病院壕までの山道「飯上げの道」を実際に樽を担ぎながら歩きました。体験中児童たちは「重いよー」と言いながらも一生懸命歩いていました。中には転んでしまう児童もいました。

戦時中、坂道や歩きにくいところを苦労して運んでいたことが分かりました。20号壕の中に入ってびっくりしたことは、昔は木のベッドや柱で立てて寝ていたこと、そんな人たちが火炎放射器で焼かれてしまい、今でも焦げた跡が残っていて驚きました。みんなが平等に暮らせる世界があるといいなと思いました。(川智)



ハンセン病と愛楽園

映像紙芝居「80年の記憶」を使い、ハンセン病と人権について学びました。屋我地の沖縄愛楽園交流会館で、愛楽園の方々の辛い経験と闘いの歩みを学びました。

いまだにハンセン病の後遺症があったり、ハンセン病が治っても辛い思いをしている人がいるのだと分かりました。(花城)
1942年にハンセン病を治す薬プロミンというものができたけど、日本に来るのが遅かったことが分かりました。らい予防法を無くすために、いろいろな人が手伝って法律が変わったことも分かりました。(平良)

多くの人達に差別されて、仲間外れにされるのは、とてもひどいなと思いました。もし私が隔離されたら、必死になって逃げると思いますが。らい予防法がなくなって解放されても、全員が幸せな訳じゃないと聞いて確かになと思いました。(知念)

中部の戦跡めぐり

米軍上陸の碑(北谷町)とチビチリガマ(読谷村)を見学し、当時の様子について学習しました。チビチリガマでは、アメリカ兵の残酷な仕打ちを恐れて、肉親同士が殺し合う「集団自決」が行われました。

米軍上陸地の碑では、少しだけ海が見えました。今は楽しそうな公園になっているけど、77年前はとても恐ろしい場所だったとは考えられません。碑には戦争の恐ろしさが彫刻で描かれていました。(伊良皆)

米軍上陸の碑を見て、この碑はもう二度と戦争を起こさないという人々の誓いがあったんだと感じました。チビチリガマでは、140人の住人のうち、集団自決により83人の命が失われたことを知りました。これからはそんな悲惨なことがないようにしていきたいです。(金城)

県外研修

ウトロ平和記念館(京都にある韓国・朝鮮人労働者集落)、ホロコースト記念館、広島平和記念資料館を見学し、差別や人権、原爆そして戦争の恐ろしさについて学びました。

ウトロ平和記念館で一番心の残っていることは、在日朝鮮人3世のキムさんが「辛い状況で生きている人は可哀相な人じゃなくて、たくましい人だよ」と言っていたことです。私は在日韓国人だからといって虐められた話を聞いたとき、可哀相だと思っていましたが、その状況を変えることができた人、へこまずに人権を訴え続けた人、その支援をした人達はとってもたくましい人だなと思うようになりました。(北村)

ホロコースト記念館では、笑顔で写る子どもの写真を見ましたが、本当は何か怖がっているようにも見えました。アンネの日記に書かれていた「なぜ人間は仲良く平和に暮らせないのだろう」という言葉は、今起きているウクライナとロシアの争いに重なる部分がありました。人間は人間らしく生きられないから、話し合いだけでは終わらないから戦争が起きるのかなと思いました。その争いが起きる前に解決できるようになって欲しいです。(伊良皆)

広島記念公園にある鐘をみんなで鳴らしました。鐘には世界地図が書かれていて、国境がなかったの、みんな仲良く暮らせるよという意味が込められているのではないかと思います。原爆被害者の豊永さんからは辛い話を聞きました。最後に豊永さんは、私たちに見えないバトンを渡してくれました。そのバトンは、私たちが後世に伝えていけるように渡してくれたものだったと感じています。大人になったら、また自分たちで見えないバトンをつなげて行きたいと思います。(金城)



コロナの影響により、子どもたちの学びが制限されていますが、そんな中でもリモートでの学習を活用するなど、文化センター職員が一生懸命、子ども平和学習交流事業を繋げてくれています。これからも南風原町の基本理念である「平和」「自立」「共生」を実現できるよう、町民平和の日を中心に「平和」の尊さを願う町民の心を育み、国内そして世界に発信できるような平和なまちづくりに取り組んでまいります。(南風原町長 赤嶺 正之)



南風原町民平和の日

過去の戦争で多くの町民の尊い命が失われたことや、米軍占領下時代から現在までの歴史を教訓とし、二度と戦争を起こさないために平成25年3月に定められた町独自の日です。日本国憲法と「南風原町非核地域に関する宣言決議」の理念の下に、全ての人が等しく平和で豊かな生活が送れるまちづくりを進めることを目的としています。

南風原町子ども平和学習交流事業

町内4つの小学校から6年生が集まり、仲間や研修先の方々と交流・学習を重ね、戦争・平和・人権・差別について考えを深める事業です。本事業は1994年に始まり、今年度までに302人が参加しています。

メンバー

北丘小学校		南風原小学校	
いらみな 伊良皆	こはる 心晴	たまき 玉城	かわち 川智
津嘉山小学校		翔南小学校	
きんじょう 金城	たいら 平良	ちねん 知念	きたむら 北村

研修の内容と感想

南風原の沖縄戦

なぜ沖縄戦がおこったのか、沖縄戦の流れを学習。文化センター職員の説明から、日本軍とアメリカが戦った理由や、戦うまでの準備の様子、互いの戦力の違いなど、学校では学ばない深い部分まで学習しました。

広島原爆、まつしろ松代大本営壕

DVD「人間をかえせ」にて広島原爆について学びました。第二次世界大戦の末期、軍部が本土決戦最後の拠点として大本営(日本軍最高司令部)を地方(長野県松代町)に移す計画についても学びました。

広島で爆撃された沼田鈴子さんの話を聞いて、広島で沢山の人が亡くなったことや、傷がなくても放射線が何年後には次々と倒れていったと知り、原爆は沢山の人の巻き込んでいる、戦争をしなくても核兵器を持つことはよくないと思いました。(金城)

松代大本営壕の工事は9か月で終わったこと、朝鮮の人が強制的に連れてこられて工事をしていたことが分かり驚きました。ひどい労働環境の影響で、それまで健康だった人も、3~4年たつと亡くなってしまうと知り悲しかったです。(玉城)

県内初！非核宣言の町

南風原町は1982年に沖縄で最初の非核宣言を行っています。全文はQRコードから。



日本非核宣言自治体協議会ホームページ

10月12日は南風原町民平和の日です。

平和の尊さを一緒に考えてみませんか。



特集 南風原町民平和の日

第28回南風原町子ども平和学習交流事業